

東京都土地改良だより

第 149 号



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2014 全国水土里ネット会長賞受賞作品 「はじめての田植え」

- 目 次 -

- 新年のご挨拶
- 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2014 開催
- 第 37 回全国土地改良大会(山梨大会) 開催
- 施設管理技術者育成対策事業第 2 回研修会 開催

新年のご挨拶



東京都土地改良事業団体連合会

会 長 山 下 奉 也

明けましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から本会の業務運営にあたり格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、豪雪から降雹そして梅雨時の猛烈な降雨と相次ぐ台風の襲来、猛暑や竜巻など異常気象による被害が全国各地で起きました。なかでも広島県での土砂災害や御嶽山の噴火災害では多くの尊い命が失われるなど、多大な被害をもたらしました。お悔やみ申し上げますとともに被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

東京におきましても、2月の数度にわたる降雪では山村地域の集落が孤立したり、多摩地域を中心に都内全域での農業用ハウスが大きな被害を受け、また、梅雨時の豪雨で秋川沿いの農業用施設が被災するなど、少なからず都民生活に影響を及ぼすこととなりました。生産農家が高齢化する中で被災は、深刻な事態を招きかねない状況であることから、国と都の支援を受けて復旧に取り組みました。

国におかれましては「農林水産業・地域の活力創造プラン」を策定し、これに基づき農林水産業を成長産業として位置づけ、農業・農村の所得倍増をめざす取り組みをはじめ、食料自給率・自給力の維持向上「強い農林水産業」を作り出していくための施策が打ち出されております。農業を通じて農地と農業施設を守る取り組みを支援する「日本型直接支払い」は、農業と農村の多面的機能の維持・発揮を推進するものと期待されています。

都市地域をはじめ都市近郊や山村・離島地域において、それぞれの特性を活かしながら営まれている東京農業は、国の施策を直接的に導入することは困難ではありますが、抱える課題を明確にしながら、会員の皆様方とともに新たな施策を活用して、地域課題の解決に向けて取り組むことが必要であります。

地域では、生産者と協力して農業用水路を管理する住民など、まだまだ少数の小さな取り組みではありますが、農外からの新たな農業への支援の輪が着実に広がっています。

こうした動きを大切に、食料の安定供給を確保する基礎的な生産基盤である農地の有効利用に向けて、農地を優良な状態で次の世代に残す取り組みに、土地改良事業の果たす役割の重要性が益々高まっています。

多面的な機能をもつ農業と農地を今一度見なおし、農業生産を通じて地域の貴重な財産として整備・保全していく取り組みに、私ども土地改良事業に携わる者として敏感に反応する必要があるのではないかと考えております。

このような状況を踏まえて、今年一年、会員の皆様からの負託に応え、果たすべき役割を実現していく所存でございますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2014 開催

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2014 の授賞式が平成 26 年 11 月 29 日(土)、台東区の日展会館にて開催されました。

この絵画展は、子どもたちに田んぼや農村に関心をもってもらい、「田んぼ」や「ため池」「農業用水路」などの風景から、大切な水路を守っている人たちの姿を通して、水の循環や環境保全への理解を促し、大人たちへのメッセージとして子どもたちのまなざしを届けることを目的として開催されています。



今年は全国から集まった 8,359 点の作品の中から、入賞 22 点、入選 94 点、地方団体賞 52 点が選ばれました。当連合会からは日の出町と小平第六小学校の子どもたちから 31 点の応募があり、その中から 2 作品が入賞（全国水土里ネット会長賞）と地方団体賞（水土里ネット東京会長賞）に選ばれました。

受賞作品の紹介



作品名

はじめての田植え

賞名

全国水土里ネット会長賞(入賞)

作品の説明

毎日食べているお米がどんなふうにして作られているか、農家の人がどんなに大変な思いをしてきたか等、米づくりを通して学べたことを忘れないように描きました。

選評

学校の授業で体験した米づくり。その田植えの様子を描いている。楽しそうな会話が聞こえてくるかのようだ。田んぼの泥や周りの草木の色に苦労したそうだが、色鉛筆でここまで色を出すのは、なかなか根気がいったことだろう。その苦労がこの絵の強さとなった。これまでありそうでなかった、印象に残る絵である。



作品名

キレイな水と美しい未来

賞名

水土里ネット東京会長賞(地方団体賞)

作品の説明

描きたかった事は、キレイな水で大きく育った所を描きました。

第 37 回 全国土地改良大会（山梨大会）

富士の国やまなし発

かけがえのない農業を次世代へ 水土里育む土地改良

平成 26 年 10 月 30 日(木)、甲府市の「アイメッセ山梨」にて、第 37 回全国土地改良大会（山梨大会）が開催されました。「富士の国やまなし発 かけがえのない農業を次世代へ 水土里育む土地改良」というテーマの下、全国から約 3,600 名の関係者が参集し、盛大に行われました。

この大会は、農業農村整備に携わる全国の関係者が一堂に会し、新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、土地改良関係者の総力を挙げて我が国の農業・農村をさらに発展させることを目的として開催されています。そのため「農業・農村の重要性」と、それを支える「農業農村整備事業の役割」を多くの方々にアピールするとともに、「我が国の食料自給率の向上と食料安定供給の確保」「農業・農村の多面的機能の発揮」「農業の持続的発展と農村の振興」などの必要性・重要性について、理解してもらうこともこの大会の大きな意義となっています。

今回は「富士の国」山梨県を舞台にこの大会が開催され、『かけがえのない農業を次世代へ水土里育む土地改良』というメッセージを国内外に発信するとともに、「果樹王国やまなし」の農産物や「世界文化遺産富士山」を始めとした多くの観光資源など、山梨の魅力を PR するため開催されました。



農業の担い手不足や耕作放棄地の増加等、喫緊の課題が山積みである状況ではありますが、先人から受け継いできたかけがえのない農業と農地を次世代へ継承していくことが求められていることから、農地をはじめ水路や農道などの農業基盤の整備、保全を行っていくためには、私たち土地改良の力が大変重要です。このため、農業に大切な水・土・里を守り育てていくことを『富士の国やまなし』から発信していくというのが大会の要旨となっています。

式典は、地元山梨県土連白倉政司会長の歓迎の挨拶と全土連野中広務会長の主催者挨拶に始まり、山梨県横内正明知事、棚本邦由県議会議長からの歓迎のことばと続きました。さらに農林水産省小泉昭男副大臣による来賓祝辞、安倍晋三内閣総理大臣の祝電披露などが行われました。

この他に来賓紹介、土地改良事業功績者表彰、基調講演、基調報告、県内土地改良事業優良事例地区紹介、大会宣言、次期開催地紹介（青森県）及び大会旗引継ぎ、次期開催地挨拶があり、幕が閉じられました。

また、式典と並行して行われた併催行事として、現場の被災状況を踏まえた計画的な農地や農業施設の復旧をはじめ、復興に向けた取り組みが着実に進んでいる状況を紹介した「東日本大震災の復旧・復興パネル展」、全国の先進的な運動を展開している水土里ネットを紹介した「21 世紀創造運動パネル展」や効率的かつ安定的な農業経営を行うため、生産性や収益性の高い農業の展開を積極的に推進している地区、そのほか地域独自の施策の展開や環境への配慮など、農村の振興を図り、活力と個性ある地域づくりを進めている地区および団体を紹介した「農業農村整備優良地区コンクールパネル展」、全国の農村地域における小水力発電をはじめとした再生可能エネルギー導入の取り組みについて紹介した「再生可能エネルギーに関するパネル展」、国際かんがい排水委員会(ICID)が歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を認定する「かんがい施設遺産」について紹介した「かんがい施設遺産パネル展」などが催されていました。この他にも会場には山梨県における農業農村整備の概要の紹介や地元やまなしの農村に関する



写真展、地場特産物の展示販売や試食を通した PR 活動なども行われていました。

翌 31 日は事業視察が実施され、圃場整備実施地区をはじめ、再生可能エネルギーや耕作放棄対策といった今後重要性が高まる分野の取り組みの実施地区を実際に見ながら説明を受けました。

農業水利施設等管理者育成対策事業 第 2 回研修会 開催

平成 26 年 11 月 20 日(木)～21 日(金)に稲城市の城山体験学習館にて、第 2 回研修会を開催致しました。基幹水利施設の長寿命化を図るためには、施設管理者の計画的な点検・整備を通じて行う機能診断及び機能保全計画策定等が重要となります。この研修会は施設の日常管理に携わる施設管理者の技術力向上を目的として平成 24 年度から実施しています。今回は「農業用水の維持管理を続けていくか」という基本的な部分に立ち返り研修を実施致しました。



主な内容

研修会は、1 日目に行なわれた参加型研修と 2 日目に行なわれた実地研修及び座談に分けて行いました。両日共に「主催者が参加者に教える」のではなく、「参加者が情報共有しながら学ぶ」ことを主眼に置いた内容となっています。

1 日目は「農業用水は“まちの素”」というテーマで、参加者が題目（項目）に沿ってそれぞれの地域の実情や経験等を発表して参加する研修です。「農業用水の取り組み」「行政の計画」「工法」の 3 点の分野を基に研修を進めていきます。「農業の専門である組合員」「まちづくりの専門である市町村担当者」「農業土木の専門である土連」3 者一体となり様々な知識や経験を出し合うことで「維持管理のヒント」を探していきます。一見すると「維持管理技術の向上」という直接的な内容は出てきませんが、話が進んでいくうちに維持管理の情報共有が図られ、維持管理手法が見出すことが出来るという構成になっています。

他所で実施されている取り組みは、各用水所管の農業用水では行われていないことが多く、革新的ではなくても独自性に富み実績もあることから、参考となる内容が数多く出てきました。

2 日目は実地研修として、今回の研修会が行なわれている大丸用水の取水堰を点検しました。参加者は大丸用水改良区関係者の他、農業用水を管理する市町村担当者も訪れていたため、その大きさと迫りに驚いていました。実際に転倒ゲートを倒すデモンストレーションでは、多くの人がカメラを構えたりゆっくりと変化する水面の様子を眺めていたり興味深く観察していました。転倒ゲートの操作が終わり下流側のエプロンが露出したら実際に歩いて回り、劣化の状況や設備を間近で見る時間となります。コンクリートの摩耗を見て自分の所管する農業用水との比較をしたり、実物を見ながら管理や工事の話を話したりと、参加者それぞれが「欲しい情報を探しに行く」姿が見受けられました。



その後行われた座談会では、各々の管理する農業

用水の実態や困っている事、取り組み等を広く話し合いました。そこでは相談や提案が柔軟に行なわれ、普段の業務の中では聞けないこととのことで、熱心に話し合っていました。

研修会の背景と課題

当事業によって実施される研修会を 2 年に渡り実施していく中で見えてきたのは、事業の本質的な部分である「施設の日常管理に携わる施設管理者の技術力向上」を図るためには、農業用水に係る人々の「課題解決」を優先する必要があることでした。

農業従事者の高齢化や財政状況の停滞、農業の衰退と急激な都市化に起因する農地の減少といった問題を抱えた状態で土地改良区や用水組合の運営をしている所が多く存在しています。

農業用水を管理できる組合員の方々は年々高齢化し、市町村担当者の方々は通常の業務との兼ね合いの中で用水管理を協力している状態が長く続いて大変苦労されています。それに輪をかけるように厳しい財政状況や宅地化が進んだことにより様々な苦情が出るようになり、対応できる能力が限りなく限界に近づいています。

こうした状況から地域単位で「これからの維持管理」を考えることが難しくなり、単純な「技術講習」のみでは思うように課題の解決が図りにくく、研修会の効果が完全に発揮出来ないという課題となっていました。このことから「施設の維持管理技術の向上」を図るためには、「技術講習」に加えて「維持管理方法や課題の集約」と「現在抱えている課題解決の糸口づくり」を行なう必要性が出てきました。

そこで今回は「技術的な内容」に加えて「維持管理事例」や「まちづくりとの関連性」に触れ、「農業用水の維持管理技術を向上するためには何が必要なのか」という部分に焦点を絞って実施しました。

参加者の反応と成果

研修会終了後に実施したアンケートでは、過去最高の回答率 93%超を記録し、研修会が役に立つかどうかの問いに対しても 90%以上の回答が「とても役に立った」及び「役に立った」と回答して頂きました。また備考欄にも多くのご意見ご要望を頂き、この研修会が有意義なものであったことが分かりました。

主催した当連合会としては、単純な技術研修ではカバー出来なかった「参加者が実際に行動する際にどの障害を取り除くことで維持管理を継続し、管理技術を向上することが出来るのか」という視点に立ち研修会を運営し、高い評価を頂けたことは非常に大きな成果となりました。当事業による研修会は今回で最終回となりますが、このように困っている事や地域の要望を自由に交わせる場を作ることが「維持管理技術を向上」させる第一歩となるということが確認出来ました。





みどり
水土里ネット

地域で守ろう豊かな自然

<http://www.midorinet-tokyo.or.jp>

発行元

東京都土地改良事業団体連合会
東京都立川市錦町 3 丁目 12 番地 11 号

TEL : 042-548-0371 FAX : 042-548-0375
URL : <http://www.midorinet-tokyo.or.jp>